



—東地中海地域ニュース—

エジプト：アラブ連盟外相会合関連報道

(9月10日付現地各紙)

9月9日にカイロで開催された第132回アラブ連盟外相会合、及びそれに先立ち行われたイラク・シリア・トルコ各外相とアラブ連盟事務総長との会談に関する報道の概要は以下のとおり。

1. アラブ連盟外相会合

- (1) 第132回アラブ連盟定例外相会合にて、アラブ諸国外相は、アラブ間の対立の解消と完全な和解の実現の重要性、2002年のバイルート・サミットで採択されたアラブ和平イニシアティブの遵守を確認した。
- (2) ムーサ・アラブ連盟事務総長の発言：
 - ① アラブ和平イニシアティブは、イスラエルとの紛争を終結させるための、アラブ側の立場を支配する文書である。
 - ② 我々は、イスラエルが1967年の国境まで完全撤退し、主権を有するパレスチナ国家が建設されることを求める。しかし、イスラエルは米国が進展を実現させようと努力している和平プロセスを失敗させようとしている。
- (3) ムアッリム・シリア外相（今会期の議長国）の発言：
 - ① アラブ諸国が直面している難題に取り組むことが重要。対立や分裂を乗り越え、アラブ諸国の共通の目的に集中させる努力の活性化を求める。
 - ② 最も重要な難題は、イスラエルによる占領とパレスチナ人への人権侵害である。シリアは、アラブ諸国が入植活動の凍結の見返りにイスラエルとの関係正常化へ向かうことを拒否する。
- (4) ダーヴトオール・トルコ外相の発言（注：非アラブのトルコは特別ゲストとしてアラブ連盟外相会合に参加）：
 - ① トルコは、近い将来にアラブ連盟代表者らをアンカラに迎える意志がある。中東地域での発展はトルコの関心事であり、特にパレスチナ問題はトルコにとっての問題でもあり、二国家解決による一刻も早い解決を求める。
 - ② アラブ諸国間の良好な関係構築を重視し、地域の平和と安定実現に重要な役割を担っているエジプトに感謝する。

2. イラク・シリア・トルコ・アラブ連盟による四者会談

- (1) ムーサ・アラブ連盟事務総長がシリア・イラク両外相と会談した後、トルコ外相が同会談に参加した。

3. ムーサ・アラブ連盟事務総長の発言：

- (1) アラブ連盟は同胞であるシリア・イラク両国間の事態鎮静化に強い関心を抱いており、如何なる努力も惜しまない。アラブ連盟はトルコによる調停に対して引き続き協力していく。本件に関してアラブ連盟とトルコはライバル関係にはない。
- (2) シリア・イラク両国はアラブ連盟の提案に前向きな反応を示している。

4. ムアッリム・シリア外相の発言：

- (1) シリア政府は、イラクの統一、主権、平和と安定に強い関心を抱いている。イラクの安全及び安定は即ちシリア、アラブの安全と安定だからである。
- (2) シリアは、8月19日にバグダッドで起こった爆弾テロに関し、その実行犯を非難したが、数日後にシリアがその実行犯をかくまっていると激しく非難されたことに驚いている。事態がこのように推移したことは残念であり、これはイラク、シリア、更にはアラブ諸国に益するところはない。